

# 林木遺伝子銀行 110 番

～「市毛小のアカマツ」と「奇跡の一本松」が里帰りしました～

## 1. 林木遺伝子銀行 110 番とは

林木のジーンバンク事業では、所有者等からの要請を受け、滅失のおそれがある貴重な樹木について後継樹をクローン増殖し現地に里帰りさせています。林木遺伝子銀行 110 番が開始した平成 15 年以來、平成 31 年 3 月 31 日現在で 280 件の要請があり、211 件 307 本の後継樹が里帰りしています。



里帰りしたおもな樹木の所在地(●)と事例

## 2. 令和元年度の事例

### 1) 「市毛小のアカマツ」

この松は、茨城県ひたちなか市立市毛小学校の校庭にあった樹高 20m、直径 90cm の巨木で、校歌に「桜明るく松清き」と歌われたシンボリックな存在でした。枯損により倒木の危険が生じたため平成 29 年に伐倒されました。現校長は、卒業生等から「市毛小のシンボルだったアカマツがなくなって淋しい。」という声をよく聞かされたそうです。

実は、衰弱の兆しが認められていた平成 28 年には、市毛小学校からの依頼を受けた林木育種センターが、つぎ木による後継樹のクローン増殖に取り組んでいました。そして、後継樹は、増殖に着手してから 3 年が経過した令和元年 9 月 17 日に開催された第 78 回創立記念集会において、全校児童の前で児童代表に手渡され、無事に里帰りしました。児童からは、「アカマツが帰ってきてくれてうれしい。」「大切に育てていきます。」という言葉をもらいました。



市毛小のアカマツと(左)と後継樹の里帰り(右)

### 2) 「奇跡の一本松」

令和元年 9 月 22 日、岩手県陸前高田市において、高田松原津波復興祈念公園国営追悼・祈念施設 道の駅高田松原及び東日本大震災津波伝承館のオープン式典が行われました。式典において、高円宮妃殿下及び関係者により、津波から唯一生き残った「奇跡の一本松」の後継樹が記念植樹され、東北育種場で育苗し 4 月に陸前高田市へ里帰りした苗木も植樹されました。



「奇跡の一本松」(左)と植樹された後継樹(右)

## 3. おわりに

遺伝子銀行 110 番により、巨樹・銘木や身近なシンボルツリーを保存したいという人々の要望に応えることによって、利用価値が見込まれる林木の遺伝資源を保存する意義が広く認知され、林木のジーンバンク事業の重要性が理解されることを期待しています。

(遺伝資源部 探索収集課 山口 秀太郎  
東北育種場 遺伝資源管理課 井上 晃)